

トランプ外交を読み解く

―中国・イラン・北朝鮮・日米通商協議

笹川平和財団上席研究員
渡部恒雄

- * 2018年3月まで現実派が主導
- * 今や大統領の唯我独尊
- * トランプ政策の基軸はABOポリシー
- * 振れが大きい対イラン、対北朝鮮政策
- * 全てはリアリティーショー
- * 反中だが景気悪化は困る
- * 解決不能のイラン問題
- * 常に再選ファースト
- * 日米協議の焦点は農業
- * ゴマすりが最善の方策



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は夏休み前、最後の講演会ですが、渡部恒雄さんにおいていただきました。東北大学歯学部をご卒業後、アメリカに留学され政治を勉強され、その後、研究者、評論家として活動されておられます。

米国はこれから日本との通商協議もございますが、いろいろな国との関係について――中国、北朝鮮、イラン、メキシコも含めて、われわれのあまり得意でない海外についてリアルなお話があったかと思えます。世界の情勢がたいへん難しい時期ですので、ぜひ今日は頭をクリアにしてお帰りいただきたいと思えます。それではよろしくお願いいたします。（拍手）

渡部 ただいまご紹介いただきました渡部恒

雄です。ここにもう何度も登壇させていただいておりますので、たぶんわかっていただけると思いますが、今週の『週刊東洋経済』に渡邊恒雄という人のインタビューが載っております。一応説明させていただくと、私は名字も違いますが、親族でもございませぬ（笑）。ただ、お互いよく知っておりますし、私はお世話になっておりますので、お元氣そうなインタビューでたいへんうれしく思っております（笑）。

2018年3月まで現実派が主導

私は前にもトランプ政権についてはお話しさせていただきましたので、今日は、皆さんの関心の高い米中貿易競争の行方、イランとの対立の行方、北朝鮮との今後、それから参議院選挙